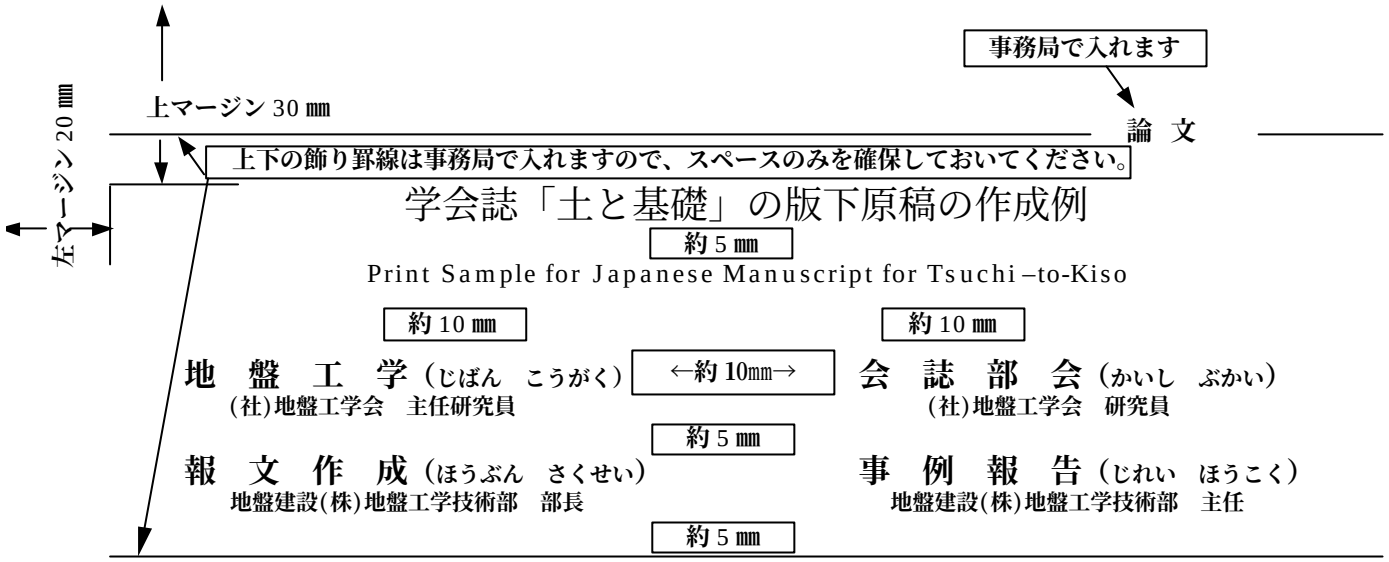


約 10 ㎜

1. はじめに←10pt ゴシック

第 1 ﾚﾍﾞﾙ(章)見出しの後は 1 行(約 5 ㎜)空ける

この原稿作成例には，学会誌「土と基礎」版下原稿を作成するために必要なレイアウトやフォントに関する情報を記述しています。査読前の一次原稿から本作成に従い原稿を作成してください。査読においてプリントアウトした原稿のレイアウト等の確認を行います。

なお，使用するワープロ，パソコン，プリンタなどの機器やソフトなどによって，設定したフォントサイズと実際の出力サイズが異なることがありますので，このような場合は，この原稿作成例のフォントサイズに限りなく近いフォントサイズを選んで出力してください。

第 1 ﾚﾍﾞﾙ(章)本文の後は 1 行(約 5 ㎜)空ける

2. 全体のレイアウト←10pt ゴシック

1 行(約 5 ㎜)空ける

ここでは，版下原稿全体にかかわるレイアウトについて説明します。

2.1 構 成←9pt ゴシック

版下項目は，次の三つの部分で構成します。

① 文題意目細分：横 1 段組
（題目，著者名，役職）

② 本文部分：横 2 段組

2.2 原稿用紙←9pt ゴシック

原稿用紙は，縦置き A4 用紙で，横書きとします。

2.3 マージン←9pt ゴシック

基本的なマージンは，次のとおりです。

上マージン ：20 ㎜
ただし，1 頁目の上マージンは 30 ㎜
下マージン ：20 ㎜
左右マージン：20 ㎜
ただし，題目部分の左右マージンは 30 ㎜

2.4 ヘッダおよびフッタ←9pt ゴシック

ヘッダおよびフッタは事務局で入れます。

第 1 ﾚﾍﾞﾙ(章)見出しの前は 1 行(約 5 ㎜)空ける

3. 論文題目部分のレイアウト←10pt ゴシック

1 行(約 5 ㎜)空ける

論文題目部分は，論文題目，著者名，所属機関名，役職から構成されます。それぞれ，次の順に横 1 段組で記載してください。

約 8 ㎜

主 題 ：14pt, ｺﾞｼｯｸ体, ｾﾝﾀﾘﾝｸﾞ
行間スペース ：約 5 ㎜（副題があるとき）
約 10 ㎜（副題がないとき）
英文タイトル ：10pt, ｾﾝﾁｭﾘｵｰﾙﾄﾞ, ｾﾝﾀﾘﾝｸﾞ
行間スペース ：約 10 ㎜
著者名(ふりがな) ：12pt,明朝体,横 2 段組(8pt 明朝体),
（所 属） ｾﾝﾀﾘﾝｸﾞ
行間スペース ：約 5 ㎜

漢字・仮名フォントは明朝体の全角，英字・数字は Times などの代表的な Roman 体の半角を用いてください。

1 行(約 5 ㎜)空ける

4. 本文部分のレイアウト←10pt ゴシック

1 行(約 5 ㎜)空ける

本文は 2 段組で，段間隔は約 6 ㎜としてください。文字間隔は，1 段 1 行が全角で 25 文字，1 ページ 52 行となるよう調整してください。

本文のフォントは漢字・仮名は明朝体の全角 9pt，英字・数字は Times などの代表的な Roman 体の半角 9pt を用いてください。

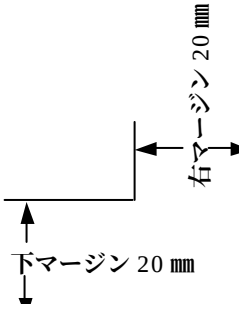
約 10 ㎜のスペース

4.1 見出し(見出しが 1 行以上にわたるときは，この例のようにインデントして折り返す)←9pt ｺﾞｼｯｸ

第 1 レベルの見出し（章）のフォントは，漢字・仮名・数字はゴシック体の全角 10pt，英字はゴシック体の半角 10pt とします。全角スペース第 1 レベル番号，全角ピリオド（例えば□4. ）の直後から見出しを書きます。見出しの上下に 1 行（約 5 ㎜）の行間スペースを設けます。

第 2 レベルの見出し（節）のフォントは，漢字・仮名はゴシック体の全角 9pt，英字・数字はゴシック体の半角 9pt とします。全角スペース第 2 レベル番号，全角スペース（例えば□4.1□）の直後から見出しを書きます。

第 3 レベル以降の見出し（項，小見出し）のフォントは，漢字・仮名は明朝体の全角 9pt，英字・数字は Roman 体の半角 9pt としてください。



上マージン 20 ㎜

左マージン 20 ㎜

4.2　数式および数学記号←9pt ゴシック

数式は 8pt **とし，次に示す式(1), 式(2)のように書いてください。**

$$Z=\sin^2\frac{\pi}{5}+\sum_{m=1}^{\infty}\cos\frac{(2n-1)}{2}\pi+\int^{2\delta}(2\sin\grave{e}\cos\grave{e}-2\grave{e})d\grave{e} \quad \cdots (1)$$

$$Fc=k^2z^2\left[\frac{\partial_U}{\partial z}\right]\left[\frac{\partial p_c}{\partial z}\right]\left[\frac{K_c}{K_m}\quad \Phi_m^{-2}\right] \quad \cdots\cdots\cdots\cdots\cdots (2)$$

数学記号は，文書中に出てくる場合（例えば *F*c**）も，数式のフォントと同じものを用いてください。**

数式番号は括弧書きで右詰めにします。

4.3　図表，写真←9pt ゴシック

(1)　**図，表，写真の作成方法**

簡易な表は版下原稿内に入力してください。一方複雑な表および，図，写真については，版下原稿内に配置位置スペースを確保した上で原稿と別途提出してください。

図は，CAD **作成，上質トレーシングペーパーの片面に墨入れ製図，あるいはこれらの鮮明なコピーとし，提出図は仕上がり寸法の** 1.5～2 **倍の大きさとします。**

写真は白黒の光沢仕上げとし，仕上がり寸法の 2 **倍程度の大きさのものを印刷原稿に添えて提出してください。**

(2)　**図，表，写真の位置**

図表，写真はそれらを最初に引用する文章と同じページにおくことを原則とします。入りきらない場合，次ページに追い出すことはかまいませんが，本文末尾にまとめることも可能とします。図表と本文の間には 1 **行の行間スペースを設けてください。**

図表，写真と本文の間は１行(約5㎜)空ける

複雑な表，図，写真およびこれらの電子データは印刷校正作業や刷り上がりの鮮度に懸念が残るため，直接入力しないで必要なスペースを確保しておいてください。

なお, 査読時および完了後のプリントアウトには，確認のため所定の大きさの縮小コピーを貼り込んでください。

約 10 ㎜のスペース

図－1　**図，写真のキャプションは下に置き，このように長いときはインデントして折り返します。**

図表，写真と本文の間は１行(約５㎜)空ける

表－1　**表のキャプションは表の上に置く。表の場合は原稿の中に直接入力してください。**

	SI単位	重力単位
力	N 1 9.8	kgf 1.02×10^{-1} 1

(3)　**図，表，写真の文字および表題**

図，表，写真の文字および表題のフォントは，漢字・仮名は明朝体の全角，英字・数字は Times **などの代表的な** Roman **体を使用してください。**

図・表中の文字のサイズは 7pt **程度としてください。**

図・表の表題は，8pt **のサイズで次のように記載してください。**

図＋全角ハイフン＋番号＋**全角スペース＋表題**

表＋全角ハイフン＋番号＋**全角スペース＋表題**

写真＋全角ハイフン＋番号＋**全角スペース＋表題**

なお，図番号，表番号は図－1，表－1 **のようにゴシック体で表記してください。**

表題が長い場合には，サンプルの図－1，表－1 **のようにインデントして改行（**2/3 **改行程度）で折り返します。**

4.4　脚注および参考文献←9pt ゴシック

(1)　**脚注**

脚注は，該当箇所の右肩に注1)，注2)･･･注n)**を付け，そのページの下段に注釈を記入してください。**

(2)　**参考文献**

参　考　文　献←8ptｺﾞｼｯｸ, ｾﾝﾀﾘﾝｸﾞ

参考文献は本文中の該当箇所の右肩に[1), 2)]**･･･として番号順にすべて本文末尾にリストとしてまとめてください。参考文献という文字はゴシック体の全角**8pt**で書いてください。参考文献リストは，漢字・仮名は明朝体の全角**8pt**，英字・数字は**Times**などの代表的な**Roman**体**8pt**を用いて行間は**5㎜**程度としてください。**

参考文献は次の書式に従って，ぶら下がりインデント（全角1**文字分のスペース）で書いてください。**

[例]

1) **高瀬国雄・天野　允・山下　進：地震によるアースダム被害，土と基礎，**Vol.14, No.10, pp.3～8, 1996.

2) **最上武雄・渡辺　隆：「平易なる土質工学」，土質工学，**pp.170～174,1957.

文献リストの後に行間スペースは設けないで右詰めで「原稿受領日」を書いてください。ただし，これらの年月日は，空白としておいてください。事務局の方で記入します。

また，参考文献リスト，「原稿受領日」の記述部分の行間を本文の行間よりある程度小さくしてもよいこととします。（本作成例の引用文献リスト部分は，本文行間の80%**になっています)。**

(原稿受理　2000.1.1)

注1) 脚注は，該当箇所の右肩に注1)，注2)･･･注n)**を付け，全角**7pt**で，そのページの下段に注釈を記入してください。**

右マージン 20 ㎜

下マージン 20 ㎜